

日本地球掘削科学コンソーシアム会員提案型活動経費実施報告書
申請活動名：西部太平洋 IODP プロポーザル作成のためのワークショップ
(H27_01)

代表者氏名：板木拓也

1. 概要

JDESCから支援を受けた2013年のKorea-Japan meeting in 箱根では、西部太平洋海域における新規IODPプロポーザル作成を目的とした「Western Pacific Drilling (WEPAD)」の枠組みを構築した。WEPAD meetingは、昨年5月に中国の青島で会議が行われ、それに引き続き今年5月17～20日に韓国の済州島で開催された。今回の会議では、現在進行中のプロポーザル作成に向けた活動状況と今後の戦略に関して情報共有と意見交換を行うと共に、今年10月の提出を目標としたプロポーザルについて議論を行った。また、今後のWEPADの活動方針について意見の取り纏めを行った。

2. 日本からの参加者（アイウ順）

池原 実（高知大学）
板木拓也（産総研）
内村仁美（東北大学）
岡崎裕典（九州大学）
関 宰（北海道大学）

この他、韓国、台湾、中国、インドネシアより参加者があり、合計 20 名程度の会議となった。

3. ワークショップ内容

第一日目は、北西太平洋、東アジア縁辺域、西部赤道太平洋の3つの海域に焦点をあてた以下9件のプレゼンテーションが行われ、それぞれについて活発な議論がなされた。

Session 1: NW Pacific Topics (Chair: Kyung Eun Lee)

Toward a resubmission of IODP proposal “Pacific Meridional Overturning Circulation and evolution of the North Pacific Gyre” – Yusuke Okazaki (Kyushu University, Japan)

A review of benthic foraminifera as an important indicator of the sea-bottom environment -

Hitomi Uchimura (Tohoku University, Japan)

Brief introduction on the newly obtained piston cores from the Ryukyu forearc region - *Ken*

Ikehara, Takuya Itaki (AIST, Geological Survey of Japan, Japan)

Session 2: East Asian Marginal Sea Topic I (Chair: Takuya Itaki)

IODP 885-Pre Proposal for assessment of Ulleung Basin gas hydrates and submarine

landslides - *Jang-Jun Bahk (KIGAM, Korea)*

Reopening of the Tsushima Strait and its effect of Japan Sea's environment during the last

deglacial period - *Jianjun Zou (First Institute of Oceanography, China)*

Academic Significance of the Joint IODP-ICDP Proposal on the Yellow Sea Basin – *Youn*

Soo Lee (KIGAM, Korea)

Session 3: Western Equatorial Pacific Topics (Chair: Yuan-Ping Chang)

Preparation of IODP APL drilling proposal on Indonesian Sea - *Kyung Eun Lee (Korea*

Maritime and Ocean University, Korea)

Paleoclimate researches in the Indonesian Waters - *Rina Zuraida (Marine Geology Institute,*

Indonesia)

Research permit procedures for foreign research and development institution - *Andy*

Hermanto Sianipar (Marine Geology Institute, Indonesia)

第二日目は、主にIODPとも連携を持つIMPRESSプログラムを活用したプロポーザル提案について議論した（詳細は添付の議事録を参照）。全部で5つのターゲット海域が設定され、これらを“Umbrella Proposal”として提案していくことについて議論が交わされた。最もスムーズに進んだ場合を想定し、2018年の航海実施に向けたロードマップを作成した。また、今後のWEPADの活動として、年1回の定例ワークショップでは、プロポーザル提案に関連する研究と新規プロポーザル提案に関する発表を行うこと、ここで提案された特定のプロポーザルについては提案者が個別に会議を実施するなどして計画を推しすすめ、ワークショップでは進捗状況などの意見交換を行っていくことで合意された。

次回WEPADは、2016年4～5月で調整し、開催地としてインドネシアのバリ島、日本の福岡、中国の青島の案が出された。また、本年夏に名古屋で行われるINQUAに参加するメンバーは、更なる議論をする場を設けることとした。

第三日目は、今後の作業について打ち合わせた後、巡検として開催地近傍に分布する海成層や火山露頭などの見学を行い、東シナ海北部の地史に関する知識を得ることが出来た。

4. 謝辞

今回のワークショップ開催に当たり、日本地球掘削科学コンソーシアム（J-DESC）より、会員提案型活動経費として援助を賜った。同コンソーシアム及び関係者各位に深く感謝する次第である。